

科目名	歯科英語		担当教員名	橋高 和季		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工		学科	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="radio"/> 演習	<input type="radio"/> 実習	<input type="radio"/> 実技
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科英語」: 医歯薬出版					
授業の概要とねらい						
歯科医療に従事する上で必要な外国語)を理解すると共に、国際人として活躍するための、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基礎英語力を修得する。						
到達目標						
「読む」: 基本的な英語の専門用語を理解し、英語文献を読んで内容を把握できる。 また、機器や材料の英文マニュアルが理解できる。 「書く」: 短い日本語を英語で記述でき、履歴書や自己紹介文を英語で記述できる。 「聞く・話す」: 英会話で簡単な挨拶ができる。また、海外での就職活動に必要な簡単な英会話を身に付ける。						
授業計画						
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
オリエンテーション〔1〕 一般的な会話 1-1 あいさつ・音の連続性の基礎知識①	1	授業内活動、学習方法等について。英語を用いた個人・ペア・グループ活動に積極的に挑むこと。教科書1-1のスク립ト音読→スキット 全項目の課題を冊子で配布し、項目ごとに行う課題を指示する。				
〔1〕1-1 知り合いとのあいさつ Expressions	1	スク립ト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット→ディクテーション				
〔1〕1-2 国際交流 事前のやりとり(E-mail)・見学当日	1	アサインメント① スクリプト音読→意味順分析→ボキャブラリー→ライティング→スキット				
〔1〕1-3 ショッピング Expressions	1	アサインメント② スクリプト音読→ボキャブラリー→スキット→ディクテーション				
〔1〕1-4 海外の展示会に参加する 入国手続き・タクシーに乗る・ホテルのフロント・展示会に行く	1	スク립ト音読→ボキャブラリー→スキット・パフォーマンス・コンテスト①				
〔1〕1-4 海外の展示会に参加する デモの見学・Expressions	1	アサインメント③ スクリプト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット→ディクテーション				
〔1〕1-5 海外で働く 訪問先へのアポイント・面接	1	スク립ト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット				
〔1〕1-5 海外で働く ラボ見学・採用試験・Expressions	1	アサインメント④ スクリプト音読→ボキャブラリー→スキット→ディクテーション				
〔2〕歯科医院での会話 2-1「歯が痛い」	1	ボキャブラリー・コンテスト② スクリプト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット				
〔2〕2-2 「入れ歯を入れたい」	1	スク립ト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット・ライティング				
〔2〕2-3 「歯並びを治したい」 1回目の診療、2回目の診療	1	アサインメント⑤ スクリプト音読→ボキャブラリー→スキット				
〔2〕2-4 「歯を白くしたい」	1	アサインメント⑥ スクリプト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット				
〔2〕2-5 「歯と歯の間に隙間ができた」 1回目の診療	1	スク립ト音読→意味順分析→ボキャブラリー→スキット				
〔2〕2-5 「歯と歯の間に隙間ができた」 検査後	1	アサインメント⑦ スクリプト音読→ボキャブラリー→スキット・パフォーマンス・コンテスト③				
期末試験	1	筆記試験				
合 計		15				
時間外学習について						
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について						
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
大学等での外国語教育の経験をもとに、歯科医療に従事する上で必要な外国語を理解すると共に、国際人として活躍するための、「読む」「書く」「聞く」「話す」に関する基礎英語力を修得する。また、他文化の言語習得を通じ、幅広い知見と視野を身につけて、世界をきちんと観察・分析する能力を養い、社会に出てから応用できる知識とスキルを持つグローバルな医療人材教育を目標とする。						

科目名	歯科技工造形学			担当教員名	堤 明裕			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	歯科技工		学科	学年	1		単位数(時間数)	1単位(15時間)			
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	○	演習	△	実習	実技	○は主、△は併用
教科書 及び参考書	最新歯科技工士教本 歯科技工造形学										
授業の概要とねらい											
歯科技工に必要な美的感覚(色彩・形態)を養うためにデッサン、絵画、彫刻及び工芸(造形美)を創造する											
到達目標											
1) 審美歯科 ①自然界の美しさと人工的な美しさについて説明できる。②歯科における形態美、機能美および色彩美を説明できる。 2) 歯の形体の理解 ①歯の形体を説明できる。 3) 歯のスケッチと着彩 ①歯・歯列の形態を正確に描写できる。②歯冠・歯周組織の色とその変化を説明できる。 4) 顔の観察 ①顎顔面の形態を描写出来る。 5) 歯の色と色彩 ①色の三属性と歯の色彩との関連を説明できる。②天然歯の色を説明できる。											
授業計画											
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)						
歯科技工造形学の必要性と履修工程の確認・各種作図の説明				1	講義開始時の説明。(各時間終了時課題を配布)						
立体構造の把握と、各面の陰影の流れの理解(立方体)				1	単純立体構造のアウトラインと陰影描写						
立体構造の把握と、各面の陰影の流れの理解(傾斜構造物)				1							
曲面構造物の把握と描写、陰影の流れの理解(円柱・円錐)				1	光源に対して曲面に反映される陰影の描写						
曲面構造物の把握と描写、陰影の流れの理解(球体)				1							
自然構造物の描写(手のスケッチ)				1	自身の手を描写(アウトライン+陰影描写)						
				1							
自然構造物の描写(顔のスケッチ)				1	ペアになった相手の顔の描写(アウトライン+陰影)						
				1							
				1							
歯牙のスケッチ1(中切歯:咬合面、側面)				1	歯型模型の描写(中切歯の構造を理解する)						
歯牙のスケッチ2(犬歯:咬合面、側面)				1	歯型模型の描写(犬歯の構造を理解する)						
歯牙のスケッチ3(小臼歯:咬合面、側面)				1	歯型模型の描写(小臼歯の構造を理解する)						
歯牙のスケッチ4(大臼歯:咬合面、側面)				1	歯型模型の描写(大臼歯の構造を理解する)						
全顎模型のスケッチ(前面)				1	歯型模型の描写(全顎の基本構造を理解する)						
合 計				15							
時間外学習について											
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、課題を作成し期日までに提出し添削を受ける事。											
成績評価の方法及び評価割合について											
学期末テストの結果と学期末の試験、出席状況で評価を行う。評価割合は 各種テスト結果:50% 出席状況:50% 計100%。成績判定:90点以上=S 80点以上=A 70点以上=B 60点以上=C 必要時間数を満たしていないものおよび課題未提出の者=D(不可)とする											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
美術造形学の履修と印刷会社での造形物作成、デッサン描写、広告類の色彩考察より、歯科技工造形学での構造物表現、色彩表現を教授する。											

科目名	情報リテラシー		担当教員名	河野 明彦		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(30時間)	
実施時期	4月～1月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技 <input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	「情報リテラシー Office2019」						
授業の概要とねらい							
対象となる学生は歯科技工学科1年生で、歯科技工業界への就職をめざしている。近年の歯科技工所はCAD・CAMを使用したデジタル技工に移行しつつあり、ICT機器利活用技術の向上が望まれている。この科目では基本的なパソコンのハード・ソフトの利活用技術を学び、業務に活用できるようになること。さらに教員のシステム構築・運用経験を活かし、初歩的なネットワーク・セキュリティ、トラブルシューティングができる人材育成をめざす。							
到達目標							
会社の中で多様な業務に対し、Webで情報収集するなど努力すればOfficeソフトが活用出来るようになること。 PCや初歩的なネットワーク・セキュリティ用語が理解でき、トラブルについてメーカーや業者にある程度説明ができる人をめざす。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
コンピュータの基礎			1	テキスト内の用語はミニ問題として5分程度で実施し、解説を行う。翌日はほぼ同様の問題を実施し理解度を確認する。			
インターネットの基礎			1				
インターネット社会と著作権			1	知識分野はテキストをPowerPointにしたものを使い、丁寧に説明をおこなう。			
SNSの安全な利用			1				
Windowsの基礎知識			1	テキストに従って進めるが、各章の終わり (Word,Excel,PowerPoint)では実践的な指定課題を、 また最終課題を実施して理解度の確認を行う。			
Wordの基礎知識			1				
文書の作成			1				
文書の印刷とページ設定			1				
表の作成			1				
文書の編集			1				
表現力をアップする			1				
長文作成をサポートする			1				
Excelの基礎知識			1				
データの入力・編集			1				
表の作成			1				
表の印刷			1				
いろいろな数式			1				
グラフと図形			1				
データベースの利用			1				
ExcelデータをWord文書に利用する			1				
PowerPointの基礎知識			1				
プレゼンテーションの作成			1				
図やオブジェクトの挿入と編集			1				
図表・グラフ・表の挿入と編集			1				
特殊効果の設定			1				
印刷関係の機能			1				
スライドショーをサポートする機能			1				
最終課題			3				
合計			30				
時間外学習について							
各章の終わりおよび夏・冬休みには実践的な課題を出し時間外を使って仕上げる。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
各章の指定課題・最終課題共に完成度を5段階評価し、指定課題:75%、最終課題:25%の割合で評価点を(100満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
システム開発業務や他の教科指導で経験した知識をもとにハードやネットワーク・セキュリティーを含めて教える。 また、運用業務などで経験したネットワーク設定やトラブル対処についても実例を挙げながら教える。							

科目名	歯科技工概論		担当教員名	衛藤 有沙		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学」:医歯薬出版 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
医療分野における歯科医療の重要性、歯科医療における歯科技工の役割を理解し、専門基礎科目と専門科目における学習を的確に行うために、それらに必要な基礎的事項を修得する。							
到達目標							
以下の事項を説明できる。							
1) 歯科技工と歯科医療 ①医療の目的 ②インフォームドコンセント ③EBMの必要性 ④QOLとADLの関連 ⑤他職種連携 ⑥医療でのコミュニケーションの必要性⑦歯科医療の目的 ⑧歯科医療の特異性							
2) 歯科技工士の役割 ①歯科技工士の業務 ②歯科技工士に必要な倫理 ③日本と世界の歯科技工士の現状							
3) 顔・口腔組織の形態と機能 ①顔の形態と機能 ②歯と歯列の形態 ③歯と歯周組織の構造 ④口腔の機能							
4) 歯科疾患と周囲組織の変化 ①硬組織疾患の種類と特徴 ②う蝕発症の要因 ③歯周組織疾患の種類と特徴 ④歯の喪失に伴う歯周組織の変化 ⑤歯科疾患の現状							
5) 歯科臨床における歯科技工 ①硬組織疾患の治療に適用する補綴物の種類と特徴 ②歯の欠損に適用する補綴物の種類と特徴 ③口腔外科疾患の装置の種類と特徴							
6) 歯科技工の管理と運営 ①適切な技工作業環境 ②補綴物の品質管理と品質保証 ③トレーサビリティ ④感染予防							
7) 口腔と全身の健康 ①口腔が全身に及ぼす影響 ②我が国の健康政策							
授業計画							
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
医療の目的	1	医療(歯科医療)と歯科技工の関わり。 毎回、授業の内容を復習するレポートまたは課題を出す。					
インフォームドコンセント EBMの必要性 QOLとADLの関連	1	医療の目的、インフォームドコンセント、EBM、QOLとADL、他職種連携、医療コミュニケーション、歯科医療の目的、歯科医療の特異性、等の医療総論を理解する。また、特に歯科技工士業務、歯科技工士に必要な倫理感や、日本と世界の歯科技工士の現状についても理解する。					
他職種連携 医療でのコミュニケーションの必要性(チームアプローチ)							
歯科医療の目的 歯科医療の特異性	1						
歯科技工士の業務 医療倫理 日本と世界の歯科技工士の現状							
顔・口腔組織の形態と機能	3						
歯科疾患と周囲組織の変化	2	歯科疾患と周囲組織					
補綴物の種類と特徴 歯の欠損に適用する補綴物の種類と特徴	2	歯科臨床における歯科技工					
口腔外科疾患の装置の種類と特徴 スポーツ歯科 法医学	2	歯科技工知識活用と多様性					
歯科技工の管理と運営	1	トレーサビリティ、感染予防(清潔と不潔の概念)					
口腔が全身に及ぼす影響	1	口腔と全身の健康の関連、ブラッシングの方法					
我が国の健康政策	1	健康政策					
合計	15						
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、指示されたレポートまたは課題を解いて期日までに提出すること。内容に不備または誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、レポートまたは課題の提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポートまたは課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
自らの口腔衛生管理や口腔の理解をもとに、「人体に装着し機能する技工物を製作する」という意識付けを行うとともに、機能修復に関する講義を行う。また、歯科臨床での経験から技工と患者の関わりなどの医道倫理、就業環境や感染対策、歯科医師・歯科衛生士・その他専門職とのチームアプローチなどから医療全体からみた歯科技工の役割や信頼性を教授する。							

科目名	関係法規		担当教員名	衛藤有沙		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験			
学科名	歯科技工		学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)		
実施時期	4月	～	9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> ○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工管理学」:医歯薬出版								
授業の概要とねらい									
医療人としての遵法精神を身に付けるために、歯科技工士として必要な法律を理解し、遵守する。									
到達目標									
1)衛生行政 ①法律の概要を説明できる。②衛生行政の意義を説明できる。③衛生行政の組織と活動を説明できる。									
2)歯科技工法 ①歯科技工士の法の目的を述べる。②歯科技工の法的定義を述べる。③歯科技工士の法的定義を述べる。 ④歯科技工所の法的定義を述べる。⑤歯科技工士免許に関する法律を説明できる。⑥歯科技工士国家試験の意義と目的。 ⑦歯科技工業務の内容を説明できる。⑧歯科技工所に関する法律を説明できる。 ⑨歯科技工に関する違反行為と罰則を説明できる。									
3)歯科医療関連法規 ①医療法の目的を説明できる。②病院と診療所の法的定義を説明できる。③歯科医師法の目的を説明できる。 ④歯科医師の任務を説明できる。⑤歯科衛生士法の目的を説明できる。⑥歯科衛生士の法的定義を説明できる。									
授業計画									
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
法律の概要				1	法律と厚生労働省を中心とした国の仕組みを理解させる。毎回、予習・復習を課題として配布する。				
衛生行政および衛生行政の組織と活動				1					
歯科技工士の法の目的				1	歯科技工士として適切な歯科技工を行うために必要な法律を理解してさせる。				
歯科技工の法的定義				1					
歯科技工士の法的定義				1					
歯科技工所の法的定義				1					
歯科技工士免許に関する法律				1					
歯科技工士国家試験の意義と目的				1					
歯科技工業務の内容				1					
歯科技工所に関する法律				1					
歯科技工に関する違反行為と罰則				1					
医療法の目的				1					
病院と診療所の法的定義				1					
歯科医師法の目的と歯科医師の任務				1					
歯科衛生士法の目的と歯科衛生士の法的定義				1					
合 計				15					
時間外学習について									
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。									
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について									
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。									
その他(科目と実務経験との関連性について)									
医療行為への信頼性を確立するため、歯科臨床の経験から必要となる法的知識の修得やコンプライアンス意識の確立を目指す講義を行う。									

科目名	解剖学(I)【口腔解剖分野】		担当教員名	安部 好美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)					
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習				
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 2 歯の解剖学:医歯薬出版										
授業の概要とねらい											
歯・歯周組織の形態、構造および機能を理解する。歯の形態学的知識を基に形態再現技術を修得の礎とする。											
到達目標											
以下の事項を説明できる。											
1) 歯・歯周組織の構造と機能 ①歯の生物学的特性。②歯の外形と内形。③歯の種類と名称。④歯の記号と歯式の表示法。⑤歯の方向と部位を表す用語。 ⑥歯の形態。⑦歯の植立様式。⑧永久歯の形態的特徴。⑨永久歯の彫刻手技。⑩歯の発生、発育および交換の過程。 ⑪歯の組織の基本的構造。⑫歯周組織の基本的構造。⑬歯と歯周組織の加齢変化。⑭歯の数、形態および色の異常。											
授業計画											
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
歯の生物学的特性			1	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学							
歯の外形と内形				全顎有歯顎模型 ANA3003-UL-D28							
歯の種類と名称			2	永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001							
歯の記号と歯式の表示法											
歯の方向と部位を表す用語											
歯の形態			1								
歯の植立様式											
永久歯の形態的特徴			6	歯・歯周組織の形態、構造および機能の学習。 毎回、授業内容の復習や歯のデッサン等の課題を課す。							
歯の発生、発育および交換の過程			3								
歯の組織の基本的構造			1								
歯周組織の基本的構造											
歯と歯周組織の加齢変											
歯の数、形態および色の異常			1								
合計			15								
時間外学習について											
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。											
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について											
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。											
その他(科目と実務経験との関連性について)											
歯科診療施設等の臨床現場で得た多くの「口腔内および頭頸部顎顔面領域」の知見より、歯科技工臨床で必要となる歯牙形態の知識、および顎口腔系の解剖学的基礎的知識を、臨床で応用する術を教授する。											

科目名	解剖学(Ⅱ)【顎顔面解剖分野】			担当教員名	安部 好美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	10月	～	3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 2 歯の解剖学:医歯薬出版							
授業の概要とねらい								
顎口腔系の基本構造と機能を理解する。								
到達目標								
以下の事項を説明できる 1)顎口腔系の基本構造と機能 ①頭蓋骨の構造。②顎顔面の筋の形態的特徴と機能。③顎関節の構造と機能。④口腔と口蓋の構造。⑤顎口腔の神経支配。 ⑥唾液腺の役割と存在部位。⑦舌の構造と役割。⑧顎口腔系の加齢現象。								
授業計画								
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
頭蓋骨の構造				3	最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学:医歯薬出版			
顎顔面の筋の形態的特徴と機能				3	頭蓋骨模型			
顎関節の構造と機能				1	顎口腔系の基本構造と機能を理解する。			
口腔と口蓋の構造				2				
顎口腔の神経支配顎口腔の神経支配				1				
唾液腺の役割と存在部位				2				
舌の構造と役割				2				
顎口腔系の加齢現象				1				
合計				15				
時間外学習について								
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。								
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について								
定期試験の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。								
その他(科目と実務経験との関連性について)								
歯科臨床施設等の臨床現場で得た多くの「口腔内および頭頸部顎顔面領域」の知見より、歯科技工臨床で必要となる歯牙形態の知識、および顎口腔系の解剖学的基礎的知識を、臨床で応用する術を教授する。								

科目名	歯牙解剖学(実習Ⅰ)		担当教員名	野見山 和貴/安部 好美		<input checked="" type="checkbox"/>	実務経験					
学科名	歯科技工		学科		学年	1	単位数(時間数)	3単位(90時間)				
実施時期	4月	～	3月	授業形態	講義	△	演習	実習	○	実技		○は主、△は併用
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版 IVY版「Tooth Carving Guide Book」											
授業の概要とねらい												
歯の解剖学的形態、構造および機能を理解する。歯の形態学的知識を基に形態再現技術を修得する。 天然歯が持つ形態、表面性状等、リアリティを追求した技術の修得。												
到達目標												
1) 歯型彫刻 ①石膏棒の基本的取り扱いができる。②彫刻で使用する器具の取り扱いができる。③歯の基本形態を説明できる。 ④全ての歯を、サンプルを観察し石膏彫刻できる。⑤指定された時間内に彫刻できる。⑥天然歯特有の特徴を再現できる。 ⑦エンジンを使用して形態再現ができる。⑧全ての部位において、サンプルを観察することなく時間内に彫刻できる。												
2) 歯のデッサン ①歯の基本形態を説明できる。②指定された倍率で基本的外形を描記できる。③天然歯の形態的特徴を描記できる。 ④指定された時間内にデッサンできる。⑤全ての部位において、サンプルを観察することなく時間内にデッサンできる。												
授業計画												
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)									
(前期)												
導入教育		4	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版									
上顎右側中切歯		8	IVY版「Tooth Carving Guide Book」									
上顎右側犬歯		8	永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001									
上顎右側第一大臼歯		8	歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28									
下顎右側第一大臼歯		8	スパチュラ ラバーボウル 石膏棒ゴム陰型									
上顎右側第二小臼歯		8	ノギス									
上顎右側第一小臼歯		3										
上顎右側第二大臼歯		3										
下顎右側第二大臼歯		3	歯の形態学的知識を基に形態再現技術を修得する。									
下顎右側第二小臼歯		3	毎回、歯の彫刻の反復練習を課題として課す。									
下顎右側第一小臼歯		3										
上顎右側中切歯 タイムトライアル(模擬試験形式)		1	規定時間内に形態再現する技術を修得する。									
(後期)												
上顎前歯部(上顎右側中切歯・上顎右側側切歯・上顎右側犬歯)		3	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 口腔顎顔面解剖学」:医歯薬出版									
下顎前歯部(下顎右側中切歯・下顎右側側切歯・下顎右側犬歯)		3										
上顎左側第一大臼歯		2	IVY版「Tooth Carving Guide Book」									
下顎左側第一大臼歯		2	永久歯歯冠彫刻模型C-PRO3A001									
上顎左側中切歯		2	歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28									
上顎左側犬歯		2	スパチュラ ラバーボウル 石膏棒ゴム陰型									
上顎左側第一小臼歯		2	ノギス									
下顎左側第一小臼歯		2										
上顎左側第二小臼歯		2										
下顎左側第二小臼歯		2	歯の形態学的知識を基に形態再現技術を修得する。									
上顎(左右側)第一大臼歯 タイムトライアル(模擬試験形式)		1	規定時間内に形態再現する技術を修得し、時間短縮を図る。									
下顎(左右側)第一大臼歯 タイムトライアル(模擬試験形式)		1										
上顎右側中切歯(超硬石膏エンジン彫刻)		2	補綴物の形態修正技術を修得する。									
上顎大臼歯比較(上顎第一大臼歯・第二大臼歯)		2	近似する形態を持つ歯牙の差異を、的確に再現できる技術を修得する。									
下顎大臼歯比較(下顎第一大臼歯・第二大臼歯)		2										
合 計		90										
時間外学習について												
教科書の事前予習を含め、実習時間の他に45時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。												
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について												
定期試験(実技)の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。												
その他(科目と実務経験との関連性について)												
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの「口腔内の器質的形態」の知見より、歯科技工臨床で必要となる歯牙形態の知識、および機能修復のための「基礎的知識」、「技術」、「手技」、および臨床応用術を教授する。												

科目名	顎口腔機能学(I)		担当教員名	安部 好美		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 3 顎口腔機能学 :医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
下顎運動と上下歯列の位置関係(下顎位)を理解する。機能運動時の下顎運動路(顎路、切歯路)と咬合状態を理解する							
到達目標							
以下の事項を説明できる。							
1)下顎運動と上下歯列の位置関係							
①歯列と咬合の関係。②顎口腔系の機能。③下顎運動の分析に必要な基準点と基準平面。④咬合に関与する平面。							
⑤下顎位の定義。⑥下顎の基本運動の種類と特徴。⑦下顎の限界運動。⑧下顎の機能運動。							
⑨機能咬頭、非機能咬頭、被蓋関係。⑩咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触。⑪咬合干渉の種類と原因。							
⑫咬合器の種類、機構および使用目的。⑬フェイスボウの取り扱い。							
⑭咬合採得の手順。⑮咬合器の使用手順と調節方法。⑯咬合検査と顎機能障害。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
歯列と咬合の関係			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 顎口腔機能学」:医歯薬出版			
顎口腔系の機能							
下顎運動の分析に必要な基準点と基準平面			1	要点チェック歯科技工士国家試験対策 3 顎口腔機能学 :医歯薬出版			
咬合に関与する平面							
下顎位の定義			1	歯牙咬合模型ANA3003-UL-D28			
下顎の基本運動の種類と特徴			1	下顎運動と上下歯列の位置関係(下顎位)を理解する。機能運動時の下顎運動路(顎路、切歯路)と咬合状態を理解する。			
下顎の限界運動							
下顎の機能運動							
機能咬頭、非機能咬頭、被蓋関係			1				
咬頭嵌合位と偏心位の咬合接触			3				
咬合干渉の種類と原因			1				
咬合器の種類、機構および使用目的			2	各種咬合器の分類、機能を理解する。			
フェイスボウの取り扱い			1	フェイスボウ・トランスファーの意義や手技を習得する。			
咬合採得の手順							
咬合器の使用手順と調節方法			1	咬合器の使用手順と調節方法の習熟			
咬合検査と顎機能障害			1	顎機能障害の対応			
合計			15				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設等での臨床現場での補綴物製作時に得た多くの知見より、補綴修復時の下顎機能運動の基礎となる内容を修得させ、歯科臨床で必要な機能修復の「基礎的知識」、「技術」を教授する。							

科目名	歯科理工学 (I)		担当教員名	野見山 和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	6単位(90時間)
実施時期	4月～3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	実習	実技
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 1 歯科理工学:医歯薬					

授業の概要とねらい

歯科医療(歯科技工)で使用される、歯科材料・歯科技工機器の使用方法や、特徴、加工技術を修得する。

- ①歯科技工に用いる材料の特性を理解する。
- ②歯科技工に必要な作業模型の製作材料の種類と特徴を理解する。
- ③歯科技工物における成形物の原型材料の種類と性質を理解する。
- ④修復材料に用いるレジンの特性と成形法を理解する。
- ⑤修復材料に使用するセラミックの特性と成形法を理解する。
- ⑥修復材料として用いられる金属の種類、特性および成形法を理解する。
- ⑦補綴装置の仕上げの意義、方法および材料を理解する。
- ⑧歯科技工に用いる加工機器の特性を理解する。

到達目標

以下の事項を説明できる。

1) 歯科材料の性質

- ①材料の機械的性質と物理的性質。
- ②生体材料に要求される化学・生物学的性質。
- ③歯科技工に必要な接着の原理と方法。

2) 模型の製作

- ①印象材の種類と所要性質。
- ②印象材に必要な物理的・化学的性質。
- ③印象材と模型との関係。
- ④石膏の種類と物理的性質。

3) 原型の製作

- ①原型材料の種類と用途。
- ②ワックスの組成と性質。

4) レジン成形

- ①義歯床用レジンの種類、組成および性質。
- ②義歯床用レジンの重合法と重合反応。
- ③義歯床用レジンの成形法。
- ④レジン材料の用途。
- ⑤人工歯の種類と性質。
- ⑥義歯裏装材の種類と性質。
- ⑦歯冠用硬質レジンの組成と性質。
- ⑧歯冠用硬質レジンと金属との接着の原理・方法。

5) セラミック成形

- ①歯科用陶材の種類と組成。
- ②歯科用陶材の成形法。
- ③歯科用陶材の性質。
- ④金属焼付陶材における金属との結合。
- ⑤オールセラミッククラウン用陶材の種類と成形法。
- ⑥ジルコニアの種類と成形法。

6) 金属成形

- ①合金の所要性質。
- ②金合金の種類、組成、性質、および用途。
- ③銀合金の種類、組成、性質、および用途。
- ④コバルトクロム合金の種類、組成、性質、および用途。
- ⑤チタンとチタン合金の種類、組成、性質、および用途。
- ⑥鋳造収縮と補正。
- ⑦埋没材の種類・性質、埋没操作および鋳型加熱。
- ⑧合金の融解と鋳込み方法。
- ⑨鋳造機の種類。
- ⑩鋳造欠陥の種類、原因および対策。
- ⑪合金の接合方法。
- ⑫合金の加工法と熱処理。

7) 補綴物の仕上げ

- ①表面仕上げの意義と目的。
- ②切削・研削・研磨用材料と機器の取り扱い。
- ③研磨の原理と方法。

8) 加工技術

- ①レーザー溶接の原理と使用法。
- ②歯科用CAD/CAMシステムの構成と特徴。

授業計画

授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
(前期) 歯科技工と歯科理工学	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 1 歯科理工学:医歯薬出版
歯科材料の性質	9	
模型製作	12	
原型製作	2	
レジン成形	12	
セラミック成形	9	
(後期) 金属成形	30	歯科医療(歯科技工)で使用される、無機材料・有機材料・高分子材料・金属・セラミック等の特徴や使用方法、また、歯科技工機器の使用方法や特徴、加工技術を修得する。 項目が終わるごとに復習課題を課す。
その他の歯科材料	3	
補綴物の仕上げ	6	
補綴物の安定性	3	
歯科技工の安全性	3	
合計	90	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、講義時間の他に180時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について

定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの知見より、歯科技工臨床での歯科材料の活用方法を教授する。また、歯科技工で使用される材料や機器の取り扱いの基礎知識についても修得させる。

科目名	歯科理工学(実習)		担当教員名	野見山 和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(30時間)	
実施時期	4月～9月	授業形態	講義	△	演習	実習	○
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科理工学」:医歯薬出版【第2版】 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
歯科医療(歯科技工)で使用される、歯科材料・歯科技工機器の特徴と使用方法を理解し、幅広い歯科技工技術を修得する。							
到達目標							
以下の事項の説明および材料操作ができる。							
1) 歯科材料の性質	①原型材料の種類と用途 ②ワックスの組成と性質						
2) 模型の製作	①印象材の種類と所要性質 ②印象材と模型との関係 ③石膏の種類と物理的性質						
3) 原型の製作	①原型材料の種類と用途 ②ワックスの組成と性質						
4) レジン成形	①義歯床用レジンの種類、組成および性質 ②義歯床用レジンの重合法と重合反応 ③義歯床用レジンの成形法						
5) 金属成形	①鋳造収縮と補正 ②埋没材の種類・性質、埋没操作および鋳型加熱 ③鋳造欠陥の種類、原因および対策						
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
歯科材料導入教育			1	歯科医療(歯科技工)で使用される、歯科材料・歯科技工機器の使用方法を理解し、特性を実験等により明確にすることで、歯科技工技術の向上を図る。 項目が終了することによりプレゼンテーションの作成およびレポート課題を課す。			
歯科材料の基礎			1				
印象材とは			2				
石膏の基本的取り扱い			2				
石膏初期硬化試験(実験)			6				
石膏効果膨張試験(実験)			6				
ワックス応力緩和実験			2				
即時重合レジン重合収縮実験			2				
鋳造欠陥実験			6				
プレゼンテーション			2				
合計			30				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、実習(実験)時間の他に15時間の自学を要する。また、指示されたレポート課題を期日までに提出し、添削指導を受けること。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
レポート課題の提出率70%、プレゼンテーションの出来10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものやプレゼンテーションの未発表、また未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの知見より、歯科技工臨床での歯科材料の活用方法を体験させ、歯科技工で使用される材料や機器の取り扱いの基礎知識と活用術について修得させる。							

科目名	有床義歯技工学(I)		担当教員名	野見山和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	4月～6月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 4 有床義歯技工学 :医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
有床義歯補綴治療における歯科技工(全部床義歯分野)の基礎的知識と技術を修得する。 ①歯列の欠損補綴治療における有床義歯技工学の意義と目的を理解し、有床義歯の種類と適応症を把握する。 ②全部床義歯の構造と特性を理解する。 ③全部床義歯の製作順序を理解する。 ④全部床義歯の印象採得に伴う技工操作を修得する。 ⑤全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作を修得する。 ⑥全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成を修得する。 ⑦全部床義歯の蝟義歯埋没と重合操作を修得する。⑧全部床義歯の咬合器再装着、人工歯の削合および義歯床の研磨を修得する。							
到達目標							
以下の事項を説明できる。 1)有床義歯技工学の意義と目的 ①有床義歯技工学の意義と目的。 ②有床義歯の種類。 ③有床義歯の特徴と適応症。 2)全部床義歯の特性 ①全部床義歯の構成要素。 ②全部床義歯の分類。 ③全部床義歯の維持、安定および支持。 3)全部床義歯の製作順序 ①全部床義歯の製作順序。 4)全部床義歯の印象採得に伴う技工操作 ①模型上のランドマーク。 ②研究模型。 ③個人トレーの目的。 ④個人トレーの製作。 ⑤作業用模型の製作。 5)全部床義歯の咬合採得に伴う技工操作 ①咬採得の目的。 ②咬合床の役割。 ③咬合床製作に必要な作業模型の処理。 ④咬合床の製作。 ⑤作業用模型の咬合器装着方法。 ⑥ゴシックアーチ描記法の目的。ゴシックアーチ描記装置の記録床への取り付け方法。 6)全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成 ①人工歯排列に関する機能・審美的な基礎知識。 ②人工歯の種類と特徴。 ③人工歯の選択方法。 ④有床義歯に付与する咬合様式。 ⑤クリステンセン現象と調節彎曲。 ⑥前歯部の人工歯排列方法。 ⑦臼歯部の人工歯排列方法。 ⑧歯肉形成の目的。 7)全部床義歯の蝟義歯埋没と重合操作 ①埋没の種類と方法。 ②義歯床用レジンの重合法の種類と特徴。 ③全部床義歯の埋没、流蝟および重合。 8)全部床義歯の咬合器再装着、人工歯の削合および義歯床の研磨 ①咬合器再装着の方法。 ②人工歯削合の目的と方法。 ③研磨の目的と方法。							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
有床義歯技工概説		1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 4 有床義歯技工学 :医歯薬出版 有床義歯補綴治療における歯科技工(全部床義歯分野)の基礎的知識、および、治療の流れや製作手順、製作法を修得する。 項目が終わるごとに復習課題を課す。				
有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識		1					
全部床義歯の特性		1					
全部床義歯の製作順序		2					
全部床義歯の印象採得に伴う技工作業		1					
全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業		1					
全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成		4					
全部床義歯の埋没と重合		2					
全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨		2					
合 計		15					
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での有床義歯製作時の歯科技工操作の基礎知識を修得させ、臨床での有床義歯製作技術を教授する。							

科目名	有床義歯技工学(Ⅱ)		担当教員名	野見山和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年		1	
実施時期	6月	～	9月	授業形態	講義	○	演習
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 4 有床義歯技工学 :医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
有床義歯補綴治療における歯科技工(部分床義歯分野)の基礎的知識と技術を修得する。 ①部分床義歯の構造と特性を理解する。②部分床義歯の製作順序を理解する。③部分床義歯構成要素の構造と役割を理解する。 ④部分床義歯の印象採得に伴う技工操作を修得する。⑤部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作を修得する。 ⑥部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成を修得する。⑦部分床義歯の蝕義歯埋没、重合および研磨を修得する。							
到達目標							
以下の事項を説明できる。							
1)部分床義歯の構造と特性 ①部分床義歯構成要素。②部分床義歯における維持、支持および把持。③部分床義歯の咬合圧支持様式。 ④部分床義歯の残存歯と欠損の分類。⑤部分床義歯の使用目的での分類。							
2)部分床義歯の製作順序 ①部分床義歯の製作順序							
3)部分床義歯構成要素 ①支台装置 :A. 直接支台装置と間接支台装置。B. 各種クラスプの分類。C. 環状型クラスプの種類と特徴。 D. バー型クラスプの種類と特徴。E. アタッチメントの種類。F. アタッチメントの構造。G. テレスコープ義歯の構造。 H. テレスコープ義歯の特徴。I. レストの種類と目的。J. 補助支台装置の種類と目的。 ②支台装置の製作 : A. サベイヤーの使用目的と構造。B. クラスプの製作法。 ③連結子 : A. 大連結子と小連結子の目的。B. 大連結子の種類と特徴。C. 鋳造バーの製作法。 ④隣接面板 : A. 隣接面板の目的。							
4)部分床義歯の印象採得に伴う技工操作 ①模型上のランドマーク。②研究用模型。③個人トレー。④作業用模型。							
5)部分床義歯の咬合採得に伴う技工操作 ①咬合採得の目的。②咬合床の役割。③咬合床の製作。④作業用模型の咬合器装着。							
6)部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成 ①人工歯選択に関わる要素。②前歯部の人工歯排列法。③臼歯部の人工歯排列法。④歯肉形成における残存歯との関係。							
7)部分床義歯の蝕義歯埋没、重合および研磨 ①埋没の種類と方法。②部分床義歯の埋没、流蝕および重合。③部分床義歯の研磨。							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意)				
部分床義歯の構造と特性		1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版				
部分床義歯の製作順序							
部分床義歯構成要素		4	有床義歯補綴治療における歯科技工(部分床義歯分野)の基礎的知識、および、治療の流れや製作手順、製作法を修得する。また、支台装置の分類や種類、適応、その他、連結子、補助装置についても理解する。項目が終わるごとに復習課題を課す。				
部分床義歯の印象採得に伴う技工作業		1					
部分床義歯の咬合採得に伴う技工作業		1					
クラスプ		3					
アタッチメント		1					
テレスコープ義歯		1					
バー		1					
部分床義歯の人工歯排列、削合、歯肉形成		1					
部分床義歯の埋没、重合		1					
部分床義歯の咬合調整と研磨							
合 計		15					
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、復習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の復習課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での有床義歯製作時の歯科技工操作の基礎知識を修得させ、臨床での有床義歯製作技術を教授する。							

科目名	有床義歯技工学(Ⅲ)		担当教員名	野見山和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	10月～1月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>	実習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 4 有床義歯技工学 :医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
有床義歯補綴治療における歯科技工(部分床義歯分野)の基礎的知識と技術を修得する。 ①有床義歯の破折と破損の原因を理解し、その修理法を修得する。②リベース・リラインの目的と種類。 ③オーバーデンチャーの目的と種類。④金属床義歯の特徴と製法を理解する。⑤顎義歯の概要。⑥口腔内装置の概要。							
到達目標							
以下の事項を説明できる。 1)有床義歯の修理 ①破折と破損の原因。②修理方法。 2)リベースとリライン ①リベース・リラインの目的。②リベースとリラインの方法。 3)オーバーデンチャー ①オーバーデンチャーの目的。②オーバーデンチャーの種類。 4)金属床義歯 ①金属床義歯の利点と欠点。②金属床義歯の製法。 5)顎義歯 ①顎義歯の適応。②顎義歯の構成。 6)口腔内装置 ①口腔内装置の種類。②各装置の適応。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
修理			3	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 4 有床義歯技工学 :医歯薬出版 有床義歯補綴治療における歯科技工(部分床義歯分野)の基礎的知識と技術を修得し、有床義歯の破折と破損の原因やその修理法、リベース・リラインの目的と種類、オーバーデンチャーの目的と種類を理解する。また、金属床義歯の特徴と製法や、顎義歯、口腔内装置などの特殊な装置の概要を理解する。			
リベースおよびリライン			2				
オーバーデンチャー			2				
金属床義歯			5				
顎義歯			2				
口腔内装置			1				
合 計			15				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での有床義歯製作時の歯科技工操作の基礎知識を修得させ、臨床での有床義歯製作技術を教授する。							

科目名	有床義歯技工学(実習Ⅰ)		担当教員名	衛藤有沙		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工		学科	学年		1	
実施時期	4月～1月	授業形態	講義	△	演習	実習	○
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」: 医歯薬出版【第2版】 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」: 医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
有床義歯補綴治療における歯科技工技術(全部床義歯・部分床義歯の制作や、義歯制作過程で使用される、個人トレー、咬合床)を習得できる。							
到達目標							
以下の事項の説明および技工操作ができる。							
1) 全部床義歯 ①石膏模型の製作 ②ワックスの取り扱い ③各種インスツルメントの取り扱い ④ワックスペンの取り扱い ⑤個人トレーの製作 ⑥咬合床の製作 ⑦全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成 ⑧埋没・重合操作。 ⑨削合。 ⑩研磨							
2) 部分床義歯 ①サバイヤーの取り扱い ②支台装置、連結子の設計 ③部分床義歯の人工歯排列と歯肉形成 ④埋没・重合操作 ⑤削合 ⑥研磨							
授業計画							
授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)					
(前期)		年間を通じ、人工歯排列と歯肉形成の反復練習を課題とする。					
有床義歯技工学概説	1	有床義歯技工学の意義と目的を説明する。					
全部床義歯の制作順序	1	歯科診療所と歯科技工所の連携について説明する。					
研究用模型製作	1	研究用模型の意義と製法を説明する。					
個人トレー	5	個人トレーの製作手順を説明する。					
咬合床	8	咬合床の構成と製作手順を説明する。					
作業模型製作・咬合器装着	5	作業模型の処理と咬合器への装着方法を理解する。					
人工歯排列(上顎前歯)	5	各部位における排列や咬合のポイントをおさえ、審美性、発音機能、咀嚼機能の伴った義歯製作のための、人工歯排列ができる。					
人工歯排列(下顎前歯)	5						
人工歯排列(下顎臼歯)	5						
人工歯排列(上顎臼歯)	5						
歯肉形成	5	審美的・機能的に適切な形態で歯肉形成を行う。					
埋没操作	3	各埋没法や手順を理解し、適切に操作ができる。					
重合操作	3	重合操作の注意点をふまえ適切に操作ができる。					
咬合器再装着	3	再装着の各方法を理解し、適切に操作を行える。					
選択削合	3	選択削合・自動削合の意味を理解し、適切な手順で、削合を行える。					
自動削合	3						
研磨	5	研磨のポイントをおさえ、適切な研磨方法を身につける。					
実技試験対策3回(模型製作を含む)	9	定期試験において合格ラインに達するように、排列・歯肉形成を行える。					
(後期)							
作業模型製作・咬合器装着	2	作業模型の処理と咬合器への装着方法を理解する。					
サバイニング・設計・ブロックアウト	5	サバイヤーの取り扱いを理解し適切な設計・処理を行える。					
支台装置・大連結子製作	12	支台装置、大連結子の役割を理解し製作できる。					
人工歯排列・歯肉形成	5	部分床義歯制作にふさわしい排列と歯肉形成が行える。					
埋没操作	3	各埋没法や手順を理解し、適切に操作ができる。					
重合操作	3	重合操作の注意点をふまえ適切に操作ができる。					
削合・研磨	5	部分床義歯制作にふさわしい削合と研磨が行える。					
線屈曲支台装置トレーニング	15	各ブライヤーや矯正線の適切な取り扱い方法を身につける。					
金属床(全部床)義歯	25	金属床義歯特有の製法や注意点を理解し製作できる。					
合 計	150						
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、実習時間の他に30時間の自学を要する。また、指示された反復練習課題を行い期日までに作品を提出し確認及び添削指導を受けること。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験(実技)の結果70%、反復練習課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の反復練習課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での実務経験で得られた知見より、有床義歯製作時に判断が必要な、口腔内の解剖学的指標など、臨床上必要となる知識・技術を教授する。また、有床義歯製作時の基礎的手法・手技についても修得させる。							

科目名	歯冠修復技工学(I)		担当教員名	川上 和久		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	4月～6月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版					<input type="checkbox"/> は主、△は併用
授業の概要とねらい						
歯冠修復補綴治療の概要や、歯冠修復歯科技工の基礎的知識を修得する。 ①歯冠修復技工学の意義と目的を理解する。 ②クラウンの種類とその特徴を理解する。 ③ブリッジの種類とその特徴を理解する。 ④クラウン・ブリッジの具備すべき条件の内容を理解する。						
到達目標						
以下の事項を説明できる。 1)歯冠修復技工学の意義と目的。 2)クラウンの概要と種類。 ①クラウンの意義、特徴および用途。②部分被覆冠の種類と特徴。③全部被覆冠の種類と特徴。 3)ブリッジの概要と種類。 ①ブリッジの特徴。②ブリッジの構成要素。③ブリッジの種類。 4)クラウン・ブリッジの具備条件。 ①生物学的要件。②構造力学的要件。③化学的要件。④審美的要件。						
授業計画						
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
日本と歯科業界と大分県の状況把握			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版		
歯冠修復技工学の概要			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版		
クラウンの形態による分類			2	要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版		
各クラウンの特徴や適応部位			2	要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版		
欠損修復におけるブリッジの役割			2	要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版		
粘膜負担義歯との違い			2	歯冠修復補綴治療の概要や、歯冠修復歯科技工の基礎的知識を修得する。		
ブリッジの構成要素ならびに種類			3	歯冠修復補綴治療の概要や、歯冠修復歯科技工の基礎的知識を修得する。		
クラウンおよびブリッジの具備要件			2	①歯冠修復技工学の意義と目的を理解する。 ②クラウンの種類とその特徴を理解する。 ③ブリッジの種類とその特徴を理解する。 ④クラウン・ブリッジの具備すべき条件の内容を理解する。毎回、復習をするため課題を課す。		
合計			15			
時間外学習について						
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について						
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での歯冠修復補綴物製作時の基礎知識と、臨床でのクラウン・ブリッジの適応を教授する。						

科目名	歯冠修復技工学(Ⅱ)		担当教員名	川上 和久		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	6月～9月	授業形態	講義	<input type="radio"/>	演習	<input type="radio"/>	実習
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
歯冠修復補綴治療での、歯科補綴物製作の基礎的知識と技術を修得する。 ①クラウン・ブリッジの製作順序を理解できる。 ②クラウン・ブリッジの技工操作を修得する。							
到達目標							
以下の事項を説明できる。 1)クラウン・ブリッジの製作順序。 2)クラウン・ブリッジの技工操作。 ①印象材の種類と特徴 ②印象方法 ③研究用模型の使用目的 ④印象用トレーの種類と目的 ⑤印象用トレーの製作法。 ⑥支台築造の意義と目的 ⑦支台築造の種類と使用材料 ⑧支台築造の製作法 ⑨テンポラリークラウン・ブリッジの意義と目的 ⑩テンポラリークラウン・ブリッジの種類と使用材料 ⑪テンポラリークラウン・ブリッジの製作法 ⑫シェードマッチングの要件と方法 ⑬作業用模型の意義と目的 ⑭作業用模型の構成と要件 ⑮作業用模型の種類 ⑯作業用模型の製作法 ⑰歯型の辺縁形態 ⑱ワックスアップの種類と方法 ⑲全部金属冠の埋没・鑄造 ⑳研磨の意義と目的 ㉑研磨方法 ㉒前装部の形態と接着法 ㉓ポンティックの要件と構造 ㉔ポンティックの種類と形態 ㉕ポンティックの適応部位 ㉖連結法の種類、適応および用途							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
クラウンブリッジの製作順序			1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版 要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版 歯冠修復補綴治療での、歯科補綴物製作の基礎的知識と技術を理解し、クラウン・ブリッジの製作順序と技工操作を修得する。また、ポンティックの要件、構造、形態、種類、分類や適応を理解する。毎回、内容を復習するために課題を課す。			
研究用模型の目的、印象材の種類と特徴、印象法			1				
印象材の種類と特徴、印象方法、印象用トレーの作成法			1				
支台築造の目的、使用材料製作法			1				
テンポラリークラウンの意義と目的、種類と使用材料、製作法シェードマッチングの要件と方法			1				
作業用模型の意義と目的、種類と使用材料、製作法			1				
作業用模型の意義と目的、種類と使用材料、製作法			1				
歯型の辺縁形態			1				
ワックスアップの種類と方法全部金属冠の埋没・鑄造、研磨の意義と目的、研磨方法			1				
前装部の形態と接着法			1				
ポンティックの要件と構造、ポンティックの種類と形態、ポンティックの適応部位			4				
連結法の種類、適応および用途			1				
合計			15				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での歯冠修復補綴物製作時の基礎知識と、臨床でのクラウン・ブリッジの適応を教授する。							

科目名	歯冠修復技工学(Ⅲ)		担当教員名	川上 和久		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)	
実施時期	10月～	1月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版[要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版【第2版】						
授業の概要とねらい							
歯冠修復補綴治療で、審美修復や先進医療に関する歯科補綴物製作の知識を修得する。 ①審美歯冠修復の概要を理解する。 ②レジン前装冠の製作順序を理解し、技工操作を修得する。 ③陶材焼付金属冠の製作順序を理解し、技工操作を修得する。 ④オールセラミックの種類と特徴を理解する。 ⑤インプラントの構成要素を理解する。							
到達目標							
以下の事項を説明できる。 1)審美歯冠修復の概要 ①審美歯冠修復の意義と目的。②審美歯冠修復補綴物の特徴、用途、適応。 2)レジン前装冠の概要と製作順序。 ①レジン前装冠の特徴、用途、種類。②接着。③製作順序。 3)陶材焼付金属冠の概要と製作順序。 ①陶材焼付金属冠の特徴、用途、種類。②焼付機序。③製作順序。 4)オールセラミック修復の概要。 ①オールセラミック・クラウンの種類と特徴。②加工方法。 5)インプラントの概要。 ①インプラントの目的。②インプラントの種類。③インプラント治療の順序 ④インプラントの上部構造体の製作法。							
授業計画							
授業項目・内容				時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
審美歯冠修復の概要				2	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版		
レジン前装冠の概要				2			
レジン前装冠の製作順序				2	要点チェック歯科技工士国家試験対策 5 歯冠修復技工学:医歯薬出版		
陶材焼付金属冠の概要				2			
陶材焼付金属冠の製作順序				2	レジン前装冠、陶材焼付金属冠、オールセラミックなどの審美修復や、インプラント治療などの先進医療に関する歯科補綴物製作の知識を修得する。		
オールセラミック修復の概要				2			
インプラントの概要				1			
インプラントの上部構造体の製作法 まとめ				2			
合計				15			
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
定期試験の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での臨床現場で得た多くの知見より、歯科臨床での歯冠修復補綴物製作時の基礎知識と、臨床でのクラウン・ブリッジの適応を教授する。							

科目名	歯冠修復技工学(実習Ⅰ)			担当教員名	久保慶奈			<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		
学科名	歯科技工		学科	学年		1		単位数(時間数)	4単位(150時間)	
実施時期	4月	～	1月	授業形態	講義	△	演習	実習	○	実技
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯冠修復技工学」:医歯薬出版【第2版】 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版									
授業の概要とねらい										
歯冠修復補綴治療における歯科技工技術(クラウン・ブリッジ、インレー・コアの製作や、治療過程で使用される、個人トレー)を修得する。										
到達目標										
以下の事項の説明および技工操作ができる。										
1) 全部金属冠(臼歯) ①作業模型の製作。②ワックスの取り扱い。③各種インスツルメントの取り扱い。④ワックスペンの取り扱い。 ⑤エンジンの取り扱い。⑥咬合器の取り扱い。⑦ワックスアップによる歯冠形態の回復。⑧埋没・鑄造操作。⑨咬合調整。 ⑩研磨。										
2) インレー・コア ①作業模型の製作。②ワックスアップ。③埋没・鑄造操作。④研磨。										
3) ブリッジ(臼歯) ①作業模型の製作。②ワックスアップ。③埋没・鑄造操作。④咬合調整。⑤研磨。⑥ポンティック部前装。										
4) テンポラリー・クラウン ①模型処理。②ワックスアップ。③コア採得。④レジン填入。⑤研磨。										
5) 硬質レジン ジャケット クラウン ①作業模型の製作。②模型処理。③レジン築盛。④形態修正。⑤研磨。										
6) 硬質レジン ブリッジ(前歯) ①作業模型の製作。②ワックスアップ。③埋没・鑄造操作。④メタル調整。⑤レジン築盛。⑥形態修正。⑦研磨。										
授業計画										
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)							
(前期)			年間を通じ、ワックスアップの反復練習および技工製作物を課題とする。							
全部鑄造冠 概説		2	歯科技工物の種類や用途の講義する。							
全部鑄造冠 作業模型製作、咬合器装着、トリミング		15	石膏、ダウエルピン、エンジン、咬合器の取扱い							
全部鑄造冠 ワックスアップ、埋没・鑄造		10	材料、機器の取扱い方法、鑄造流れを指導する。							
全部鑄造冠 咬合調整、研磨		8	切削・研磨器具名前、手順について							
インレー・コア 概説、作業模型製作		1	製作方法の説明、模型製作の再確認する。							
インレー・コア ワックスアップ、埋没・鑄造、研磨		9	材料、機器の取扱い方法、鑄造、研磨の流れを再確認する。							
ブリッジ 概説		1	種類や用途の講義する。							
ブリッジ 作業模型製作、咬合器装着、トリミング		8	製作方法の説明、模型製作の再確認する。							
ブリッジ ワックスアップ、埋没・鑄造		6	材料、機器の取扱い方法、鑄造流れを再確認する。							
ブリッジ 咬合調整、研磨		5	切削・研磨器具名前、手順について再確認する。							
実技試験対策3回(模型製作を含む)タイムトライアル		10	制限時間内での試験一連の流れを何度も行う。							
(後期)										
個人トレー・個歯トレー		10	製作過程における材料の名前や性質、作業の順序・意味を理解して貰う。							
テンポラリークラウン 概説、模型処理、ワックスアップ、コア採得、レジン填入、研磨		5								
硬質レジンジャケット+下顎5本ブリッジ		30	特徴と製作方法を理解							
硬質レジン前装冠(上顎前歯1本)		10	特徴と製作方法を理解し、審美性を意識する。							
硬質レジンブリッジ(上顎前歯3本)		20								
合 計		150								
時間外学習について										
教科書の事前予習を含め、実習時間の他に30時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。										
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について										
定期試験(実技)の結果70%、課題の提出率および評価10%、出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。										
その他(科目と実務経験との関連性について)										
臨床現場で得た多くの知見より、歯冠修復物製作時の基礎的手技を修得させ、歯科臨床での製作技術を教授する。また、歯科技工で使用される材料や機器の取り扱いの基礎知識についても修得させる。										

科目名	矯正歯科技工学		担当教員名	久保慶奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/> 演習	<input type="checkbox"/> 実習	<input type="checkbox"/> 実技
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 矯正歯科技工学」:医歯薬出版【第2版】					

授業の概要とねらい

矯正歯科治療の概要や、矯正歯科技工の基礎的知識を修得する。

- ①矯正歯科技工の意義と目的を理解する。
- ②矯正歯科治療における正常咬合と不正咬合を理解する。
- ③矯正歯科技工に用いる器械・器具と材料と、それらの特徴を理解する。
- ④矯正歯科技工における基本的手技を理解する。
- ⑤矯正用口腔模型の種類と特徴を理解する。
- ⑥矯正装置の必要条件と分類を理解する。
- ⑦各種の動的矯正装置の目的と構成を理解し、主な装置の製作法を修得する。
- ⑧各種保定装置の目的と構成を理解し、主な装置の製作法を修得する。

到達目標

以下の事項の説明ができる。

1) 矯正歯科治療における矯正歯科技工の意義と目的

- ①矯正歯科治療の意義と目的。 ②矯正歯科治療における症例分析方法。 ③矯正歯科治療における矯正歯科技工の目的。

2) 正常咬合と不正咬合

- ①正常咬合の条件と種類。 ②不正咬合。

3) 矯正歯科技工用具と器械

- ①矯正歯科技工によく用いられる器械・器具と材料の種類。 ②矯正歯科技工によく用いられる器械・器具と材料の用途。

4) 矯正歯科技工の手技

- ①線屈曲。 ②自在ロウ着。 ③床矯正装置。

5) 矯正用口腔模型

- ①矯正用口腔模型の種類。 ②並行模型の製作法。 ③セットアップモデルの用途と製作法。

6) 矯正装置の必要条件と分類

- ①矯正装置の必要条件。 ②矯正装置の分類。

7) 動的矯正装置

- ①舌側弧線装置の目的、構成、製作法。 ②ナンスのホールディングアーチの目的、構成。 ③顎間固定装置の目的、構成。
 ④アクチバートルの目的、構成。 ⑤バイオネーターの目的、構成。 ⑥咬合挙上版の目的、構成。 ⑦咬合斜面板の目的、構成。
 ⑧可撤式拡大装置の目的、構成。 ⑨固定式拡大装置の目的、構成。 ⑩固定式急速拡大装置の目的、構成。
 ⑪ヘッドギアの目的、構成。 ⑫オトガイ帽装置の目的、構成。 ⑬上顎前方牽引装置の目的、構成。 ⑭リップバンパーの目的、構成。
 ⑮マルチブラケット装置の目的と、ダイレクトボンディング法・インダイレクトボンディング法。 ⑯フレネル装置の目的、特徴。

8) 保定装置

- ①ホーレーの保定装置の目的、構成、および製作法。 ②ラップアラウンドリテーナーの目的、構成。
 ③トウスポジションナーの目的、構成。 ④スプリングリテーナーの目的、構成。 ⑤犬歯間リテーナーの目的、構成。

授業計画

授業項目・内容	時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)
矯正歯科治療における矯正歯科技工の意義と目的	3	近年の歯科矯正技工の重要性の高まりを解説する。
正常咬合と不正咬合		咬合の正常・不正に関わる条件と分類を解説する。
矯正歯科技工用具と器械、矯正歯科技工の手技	2	各種プライヤーの特性や線屈曲のコツを解説する。
矯正用口腔模型	1	各種模型の用途や製作方法を解説する。
矯正装置の必要条件と分類	1	矯正装置の必要条件と分類を解説する。
動的矯正装置	6	動的矯正装置の種類その機能、適応症を解説する。
保定装置	2	保定装置各種の製作方法と機能を解説する。
合計	15	

時間外学習について

教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。

成績評価の方法及び評価割合について

定期試験の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。

その他(科目と実務経験との関連性について)

歯科診療施設での実務経験から得られた知見により、矯正歯科臨床の流れや、歯科技工士の役割・製作する装置に関する基礎的な知識を教授する。

科目名	矯正歯科技工学(実習)		担当教員名	久保慶奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(30時間)	
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 有床義歯技工学」: 医歯薬出版【第2版】 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」: 医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
矯正歯科治療における歯科技工技術(基本手技、矯正用口腔模型の製作、動的矯正装置の製作、保定装置の製作)を修得する。							
到達目標							
以下の事項の説明および技工操作ができる。							
1) 基本的手技 ①0.9mm矯正線屈曲。②0.5mm矯正線屈曲。③自在ロウ着。							
2) 矯正用口腔模型 ①セットアップモデル。							
3) 動的矯正装置 ①舌側弧線装置の製作法。②咬合斜面板。							
4) 保定装置 ①ホーレーの保定装置。②アライナー。							
授業計画							
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
基本的手技 0.9mm線屈曲		2	ブライヤーと矯正線の特性を理解した上で、適切な手順で矯正線の屈曲ができる。				
基本的手技 0.5mm線屈曲		1					
基本的手技 自在ロウ着		2	作業の際の火傷に注意して適切に自在ロウ着ができる。				
セットアップモデル		2	セットアップモデル特有の手順で排列や歯肉形成ができる。				
舌側弧線装置		10	線屈曲とロウ着を組み合わせ口腔内で機能する装置を作る				
ホーレーの保定装置+咬合斜面板		10	主線、単純鉤を屈曲でき、ふりかけ法による床を製作できる。				
アライナー		3	アライナーの役割を理解し、適切に制作できる。				
合 計		30					
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、実習時間の他15時間の自学を要する。また、指定された復習課題を行い期日までに提出し確認及び添削指導を受けること。							
成績評価の方法及び評価割合について							
定期試験(実技)の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。・レポート・提出物及び出席による総合評価とし、評価点(100点満点)を算出する。90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をC、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設での実務経験からの知見により、矯正歯科技工の臨床で使用頻度の高い矯正装置と、それらの矯正装置の製作法の基本を							

科目名	小児歯科技工学		担当教員名	久保慶奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	<input type="radio"/> 演習	実習	実技
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 小児歯科技工学」:医歯薬出版【第2版】 要点チェック歯科技工士国家試験対策 6 矯正歯科技工学 小児歯科技工学					
授業の概要とねらい						
小児歯科治療の概要や、小児歯科技工の基礎的知識を修得する。 ①小児歯科技工の意義と目的を理解する。 ②小児の歯、歯列および顎顔面の成長発育を理解する。 ③小児の歯冠修復の特徴を理解する。 ④小児の咬合誘導の目的を理解し、咬合誘導に用いる装置の種類、特徴および構成を類別する。						
到達目標						
以下の事項を説明できる。 1)小児歯科治療における小児歯科技工の意義と目的 ①小児歯科治療の特色。②小児歯科治療における小児歯科技工の目的。 2)歯・顎・顔面の成長発育 ①顎顔面の成長発育。②乳歯と永久歯の萌出時期と萌出順序。③ヘルマン・デンタルエイジ。④乳歯の形態的特徴。 ⑤無歯期における顎の上下対向関係。⑥顎間空隙。⑦乳歯列の形態。⑧生理的歯間空隙。⑨有隙型歯列弓と閉鎖型歯列弓。 ⑩乳歯列の被蓋関係。⑪ターミナルプレーンの定義と意義。⑫第一大臼歯の萌出時期と萌出方向。 ⑬ターミナルプレーンと第一大臼歯との関係。⑭切歯の交換様式。⑮リーウェイスペースの定義と重要性。 3)小児の歯冠修復 ①小児の歯冠修復の種類と特徴。 4)咬合誘導装置 ①保隙装置：A. 保隙装置の意義と目的。B. 保隙装置の種類と分類。C. クラウンループ(バンドループ)の目的、構成、製作法。 D. ディスタルシュー保隙装置の目的と構成。E. 舌側弧線型保隙装置の目的と構成。 F. ナンスのホールディングアーチの目的と構成。G. 可撤式保隙装置の目的と構成。 ②スペースリグナー：A. スペースリグナーの目的と構成。B. スペースリグナーの製作法。 ③口腔習癖除去装置：A. 口腔習癖の種類と口腔への影響。B. 口腔習癖除去装置の目的と種類。C. 舌癖除去装置の構成。 ④咬合誘導装置に用いる維持装置：A. 咬合誘導装置に用いる維持装置の種類。 B. 咬合誘導装置に用いる維持装置の特徴、製作法。						
授業計画						
授業項目・内容	時間数(コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)				
小児歯科治療における小児歯科技工の意義と目的	1	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 小児歯科技工学」:医歯薬出版				
歯・顎・顔面の成長発育 (顎顔面の成長発育、乳歯と永久歯の萌出時期と萌出順序)	1					
歯・顎・顔面の成長発育 (ヘルマン・デンタルエイジ)	1	要点チェック歯科技工士国家試験対策 6 矯正歯科技工学 小児歯科技工学				
歯・顎・顔面の成長発育 (乳歯の形態的特徴)	1					
歯・顎・顔面の成長発育 (顎の上下対向関係、顎間空隙、乳歯列の形態、生理的歯間空隙)	1					
歯・顎・顔面の成長発育 (有隙型歯列弓と閉鎖型歯列弓、乳歯列の被蓋関係)	1					
歯・顎・顔面の成長発育 (ターミナルプレーンの定義と意義、第一大臼歯の萌出時期と萌出方向)	1					
歯・顎・顔面の成長発育 (ターミナルプレーンと第一大臼歯との関係、切歯の交換様式、リーウェイスペースの定義と重要性)	2	小児歯科治療の概要や、小児歯科技工の基礎的知識を修得し、小児歯科技工の意義と目的を理解する。また、小児の歯、歯列および顎顔面の成長発育を理解すると共に、小児の歯冠修復の特徴を理解する。交換期にあつては小児の咬合誘導の目的と、咬合誘導に用いる装置の種類、特徴および構成を類別できる。				
小児の歯冠修復	1					
咬合誘導装置	5					
合計	15					
時間外学習について						
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について						
定期試験の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの知見より、小児期における成長・発達歯科分野の基礎知識と、小児歯科臨床で用いられる咬合誘導装置の適応症例を教授する。						

科目名	小児歯科技工学(実習)		担当教員名	久保慶奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(30時間)	
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	演習	実習	<input type="checkbox"/>	実技 <input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 小児歯科技工学」:医歯薬出版【第2版】 全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」:医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
小児歯科治療における歯科技工技術(基本手技、咬合誘導装置の製作、保隙装置の製作)を修得する。							
到達目標							
以下の事項の説明および技工操作ができる。							
1)保隙装置 ①クラウンループ(バンドループ)。②可撤式保隙装置(小児義歯)。							
2)スペースリゲナー ①アダムスのスプリングを使用したスペースリゲナー。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
小児歯科技工の概説			2	種類や用途の講義			
クラウンループ(バンドループ)			6	各種技工物の目的を理解し製作方法を学ばせる			
可撤式保隙装置(小児義歯)			12				
スペースリゲナー			10				
合 計			30				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、実習時間の他15時間の自学を要する。また、指示された復習課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
レポート・課題提出率80%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出の課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
小児歯科技工臨床での歯科材料の活用方法を教授する。また、小児歯科技工で使用される材料や機器の取り扱いの基礎知識についても修得させる。							

科目名	総合歯科演習(I)		担当教員名	産学連携企業		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(20時間)
実施時期	3月～3月	授業形態	講義	演習	<input type="checkbox"/>	実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> △ <input type="checkbox"/> ○は主、△は併用
教科書及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」: 医歯薬出版					
授業の概要とねらい						
歯科技工士教育における臨地見学(インターンシップ)は、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とする。歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、そして責任感を臨床現場体験で修得する。						
到達目標						
プレインターンシップ(9:10~14:50) ①実習先での社会性(挨拶、礼儀、対応など)。②積極性。③歯科技工知識の統合。						
授業計画						
授業項目・内容		時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
プレインターンシップ1		10	歯科技工士教育における臨地見学(インターンシップ)は、学内教育で習得した知識・技術を臨床現場で統合することを目的とし、歯科医療専門職に求められる適切な行動・態度、そして責任感を臨床現場体験で修得する。 また、臨床現場におけるルーティーンを体験することで、業務の組立を思考できることを目的とする。 インターンシップ受け入れ企業は、本学の産学連携企業とし、企業側に実習指導者を置く。			
プレインターンシップ2		10				
合計		20				
時間外学習について						
教科書の事前予習を含め、実習時間の他10時間の自学を要する。また、指示された課題を行い期日までに提出し確認および添削指導を受けること。						
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について						
実習評価表の結果70%、レポート・課題提出率10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
歯科技工施設で、歯科技工臨床での歯科補綴物製作方法を見学させ、歯科技工で使用される材料や機器の取り扱いの基礎知識と製作術について修得させる。臨床現場での標準的な歯科技工作業のルーティーンを理解させる。						

科目名	スポーツ歯科医学		担当教員名	野見山 和貴/田野上 涼		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(15時間)
実施時期	2月～2月	授業形態	講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>
			講義	<input type="checkbox"/>	演習	<input type="checkbox"/>
教科書 及び参考書	「歯科臨床が変わる筋機能学こと始め—筋の生理から運動指導・手技療法まで」: 砂書房 「入門スポーツデンティスト」: 永末書店					○は主、△は併用
授業の概要とねらい						
運動機能と顎口腔系の関わりを理解し、運動生理学に根ざしたスポーツ歯科医学の基礎を修得する。						
到達目標						
スポーツ歯科医学の概要や、運動生理学の基礎的知識を修得する。 サーモフォーミングのを修得。 スポーツマウスガードの製作法を修得。						
授業計画						
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)		
スポーツ歯科医学の概要			1	運動機能と顎口腔系の関係や、運動生理学に根ざしたスポーツ歯科医学の基礎を理解し、併せて、サーモフォーミング技術の修得とスポーツマウスガードの製作法を修得させる。		
運動生理学			1			
サーモフォーミング			1			
スポーツマウスガード製作			6			
サーモフォーミングを活用したオーラルアプライアンス			3			
装着体験(生理学的実験)			3			
合 計			15			
時間外学習について						
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に30時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。						
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について						
レポート・課題提出率10%、プレゼンテーションの出来70%及び出席20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。						
その他(科目と実務経験との関連性について)						
日本スポーツ歯科医学会認定マウスガードインストラクターとして臨床現場で得た多くの知見や、作業療法士としての臨床治験より、スポーツ歯科臨床での運動生理学やスポーツマウスガード活用方法を体験させ、スポーツ歯科で使用される材料や機器の取り扱いの基礎知識と活用術について修得させる。また、スポーツに医科学介入する上で必要なフィールドワークや、アスリートアントラージュとしての歯科医療従事者のあり方を教授する。						

科目名	生体医工学		担当教員名	野見山 和貴		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	1単位(30時間)	
実施時期	3月～3月	授業形態	講義	△	演習	実習	○
教科書 及び参考書	「デンタル・テクノロジー」:アークメディア						
授業の概要とねらい							
頭頸部顎顔面領域の広範囲実質欠損修復処置で、失われた組織や機能を回復を行うための知識と、その際に使用される顎顔面補綴物(エピテーゼ)の製作技術を修得する。また、頭頸部顎顔面領域に留まらず、歯科技工技術を基礎とした、医科学分野での応用を理解する。							
到達目標							
顎顔面補綴の基礎的知識と口腔外科技工で用いられるオーラルアプライアンスの製作を修得し、歯科技工技術の他分野応用も理解する。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
顎顔面補綴の概説			1	「デンタル・テクノロジー」:アークメディア 頭頸部顎顔面領域の広範囲実質欠損修復処置で、失われた組織や機能を回復を行うための知識と、その際に使用される顎顔面補綴物(エピテーゼ)の製作技術を修得する。 また、頭頸部顎顔面領域に留まらず、医科学分野での応用が可能な歯科技工技術があることを理解する。 (顎顔面補綴の基礎的知識と口腔外科技工で用いられるオーラルアプライアンスの製作技術を修得し、歯科技工技術の他分野応用も理解する)			
顎顔面補綴 原因(原疾患の治療)と修復処置			1				
顎顔面補綴の現状			1				
エピテーゼの基礎			1				
耳介エピテーゼの製作 印象法と模型製作			1				
耳介エピテーゼの製作 原型製作(ワックスアップ)			4				
耳介エピテーゼの製作 原型調整			1				
耳介エピテーゼの製作 埋没操作			1				
耳介エピテーゼの製作 シリコーン色調調整・填入			2				
耳介エピテーゼの製作 取り出し、辺縁調整			1				
耳介エピテーゼの製作 外部着色			1				
手指エピテーゼの製作 印象法と模型製作			1				
手指エピテーゼの製作 原型製作(ワックスアップ)			4				
手指エピテーゼの製作 原型調整と爪の製作			2				
手指エピテーゼの製作 埋没操作			1				
手指エピテーゼの製作 シリコーン色調調整・填入			2				
手指エピテーゼの製作 取り出し、辺縁調整			1				
手指エピテーゼの製作 外部着色			1				
口腔外科技工			2				
歯科技工技術の他分野応用			1				
合計			30				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、講義時間の他に15時間の自学を要する。また、配布された復習課題を解いて期日までに提出すること。誤った箇所については、再提出し確認をもらうこと。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
レポート・課題提出率10%、プレゼンテーションの出来70%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
日本歯科技工学会専門歯科技工士(顎顔面補綴分野)資格を持ち、日本顎顔面補綴学会で研鑽を積み、診療施設等での臨床現場で得た外科、口腔外科、形成外科等の知見より、顎顔面補綴基礎的知識、技術、手法、および臨床応用術を教授する。また、医科学分野に介入する上での医療倫理や、顎顔面補綴を基にした歯科技工技術の他分野応用の可能性なども教授する。							

科目名	包括的歯科技工実習(I)		担当教員名	久保 慶奈		<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	
学科名	歯科技工	学科	学年	1	単位数(時間数)	2単位(60時間)	
実施時期	10月～3月	授業形態	講義	△	演習	実習	○
教科書 及び参考書	全国歯科技工士教育協議会編「最新 歯科技工士教本 歯科技工実習」: 医歯薬出版						
授業の概要とねらい							
各分野で得られた知識・技術を臨床の場面に適用し、知識を統合できる素地を養う。 理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を修得する。							
到達目標							
1)臨床力(理論・判断力)の強化…臨床応用歯科技工(10月～1月 45時間) ①各専門教科(分野)で得られた知識・技術を統合し、臨床を想定した症例に適用できる。 2)総合的な歯科技工技術の強化…(2月集中講義15時間) ①主要3実習教科(有床義歯技工学・歯冠修復技工学・解剖学)で、指定された症例を指示された時間で製作できる。 ②国家試験実技課題(歯型彫刻・歯牙外形描記・矯正線屈曲)を指示された時間で製作できる。							
授業計画							
授業項目・内容			時間数 (コマ)	教育活動(教材、指導上の注意点)			
(後期)10月～1月							
臨床応用実習 (歯冠修復技工学)			6	各専門教科(分野)で得られた知識・技術を統合し、臨床を想定した症例に適用できるよう、理論と実践を結び付けて理解できる能力と技術力を修得する。			
臨床応用実習 (有床義歯技工学)			6				
臨床応用 (複合症例) 症例分析、補綴計画の検討、設計			3				
臨床応用 (複合症例) 補綴修復物製作			24				
臨床応用 (複合症例) 検証			1				
臨床応用 (複合症例) プレゼンテーション作成			3	製作時の設計コンセプトや、製作技法の症例発表準備			
臨床応用 (複合症例) 症例発表			2	症例検討発表会			
(後期)2月集中講義							
有床義歯技工学 全部床義歯人工歯排列・歯肉形成 3回			9	実技試験対策 合格基準まで添削、修正を行う。			
解剖学 歯型彫刻			3				
歯冠修復技工学 全部金属冠ワックスアップ			3				
合 計			60				
時間外学習について							
教科書の事前予習を含め、実習時間の他30時間の自学を要する。また、指示された課題を行き期日までに提出し確認および添削指導を受けること。							
成績評価の方法、評価割合及び成績評価の基準について							
レポート・課題提出率70%、プレゼンテーション10%及び出席率20%の100%で評価し、評価点(100点満点)を算出する。評価は、評価点が90点以上をS、80点以上をA、70点以上をB、60点以上をCとし、59点以下はD(不可)とする。尚、必要時間数を満たしていないものや未提出のレポート課題があるものはD(不可)とする。							
その他(科目と実務経験との関連性について)							
歯科診療施設等での臨床現場で得た多くの臨床応用知見より、歯科臨床における多様な症例に対応できる高い知識と技術を教授し、主な歯科技工技術の迅速性を養う。							